

SDGインパクト基準研修 グローバル発表会 パネルディスカッション

“SDGインパクトが企業にもたらすもの”
～インパクトを創出するサステナブルな資本主義へ～

2022年7月14日

一般社団法人 日本経済団体連合会
建設的対話促進ワーキング・グループ座長
第一生命ホールディングス(株)
経営企画ユニットフェロー 銭谷美幸

2. 経団連での報告書の検討体制

検討体制

金融・資本市場委員会

委員長 太田 純 (三井住友フィナンシャルグループ 社長)
委員長 日比野 隆司 (大和証券グループ 本社会長)
委員長 林田 英治 (JFEホールディングス 特別顧問)

建設的対話促進ワーキング・グループ

座長 銭谷 美幸 (第一生命ホールディングス)

座長: 銭谷美幸 第一生命ホールディングス(株)経営企画ユニットフェロー

アステラス製薬(株)
アセットマネジメントOne(株)
HRガバナンス・リーダーズ(株)
ANAホールディングス(株)
ENEOSホールディングス(株)
(株)クボタ
KDDI(株)
ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント(株)
JPモルガン・アセット・マネジメント(株)
住友化学(株)
Zホールディングス(株)
(株)セブン&アイ・ホールディングス
ソニーグループ(株)
SOMPOホールディングス(株)
大成建設(株)
(株)大和証券グループ本社
大和ハウス工業(株)
東京海上ホールディングス(株)
東京電力ホールディングス(株)

東レ(株)
日本製鉄(株)
日本生命保険(相)
野村アセットマネジメント(株)
(株)日立製作所
富士通(株)
ブラックロック・ジャパン(株)
ブルームバーグ・エル・ピー
(株)ベネッセホールディングス
三井住友信託銀行(株)
三井住友DSアセットマネジメント(株)
三井物産(株)
三井不動産(株)
三菱重工業(株)
三菱商事(株)
三菱電機(株)
(株)三菱UFJ銀行
三菱UFJ信託銀行(株)
(株)メルカリ

検討の経緯

事前勉強会および計6回のWGを開催

21年10月28日
事前勉強会
講演: 野村浩二 慶大教授

21年11月30日
第1回WG
講演: ブルームバーグ

22年2月3日
第2回WG
事例発表: KDDI / 第一生命

22年2月28日
第3回WG
事例発表: 大和ハウス工業
/ ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント

22年3月25日
第4回WG
事例発表: JPモルガン・アセット・マネジメント

22年4月25日
第5回WG
(集中討議)


22年5月23日
第6回WG
講演: 足達英一郎 日本総研理事

3. 企業と投資家が期待する情報


対話の前提となる情報



サステナビリティに関する対話で期待する内容

企業 

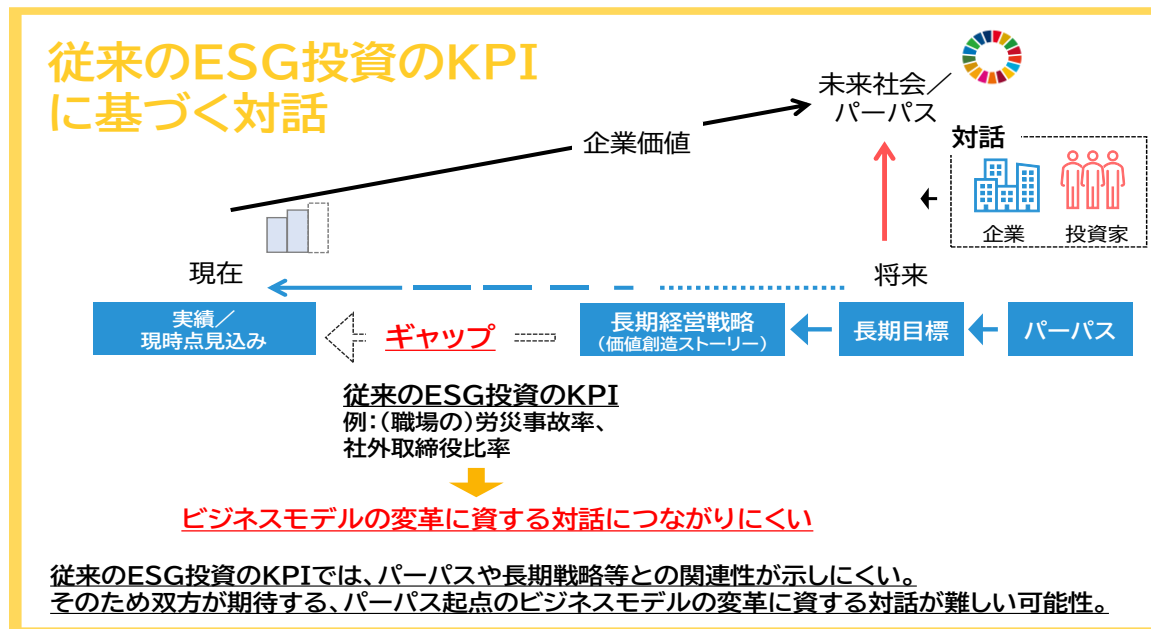
長期目標や経営戦略等に関する対話を期待。特に、事業 / イノベーションを通じた社会課題の解決への取組みを評価してほしい。

投資家 

企業が掲げる長期目標や経営戦略等についての実効性を確かめるべく、**ビジネスモデルの提示、KPIの設定やその確認に関する対話を期待する。**

- 企業と投資家のサステナビリティに関する対話は、パーパス起点の長期目標や長期経営戦略に基づく開示を踏まえて行われる。
- またそうした対話の中で、企業はより長期目標や経営戦略等に関する対話を期待する。
- 投資家は、企業の取組みに関する情報を、重要性、将来性、実効性、測定可能性の4点から注目する。そのためKPIなどの設定および設定に向けた議論を期待する。

4. 新たな指標の必要性



- 企業と投資家双方で双方が期待する情報を埋める取組みは進展するが、依然として、サステナビリティに関する対話においては、企業と投資家間にギャップがある。
- その原因の一つとして、従来のESG投資におけるKPIだけでは、サステナビリティの機会の獲得に向けた長期目標、長期経営戦略等を十分反映していない場合がある。そのため双方が期待する対話(ビジネスモデルの変革等)が実現できていない可能性がある。
- **そこで従来のESG投資におけるKPIを一步進めた、パーパス起点の対話に資する新たな追加指標を検討する必要がある。**

5. インパクト指標の活用

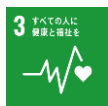
インパクト指標とは

【定義】

事業や活動の結果として生じた、社会的・環境的な変化や効果を示す指標

(出所) *GSG国内諮問委員会

【指標例】



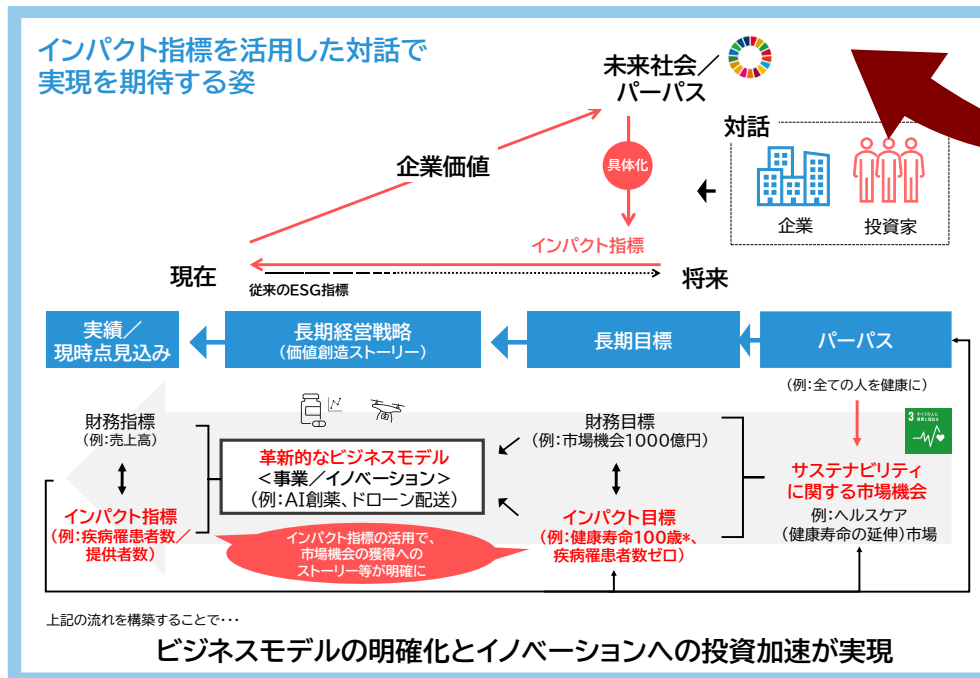
- 健康寿命
- 医療アクセス(離島等への提供数)
- 医療費削減額
- 疾病罹患患者数
- 生活習慣の改善者数
- 要介護者数
- ...



- 災害の人的被害数
- 犯罪被害件数
- 事業拠点の分散化率
- 居住人口数
- インターネットのカバー率
- 資源効率
- ...

- **インパクト指標とは、「事業や活動の結果として生じた、社会的・環境的な変化や効果を示す指標」**である。これらの指標を、自社のビジネスモデルを通じて、どのように実現していくかが重要。
- インパクト指標は、その性質から、投資家が期待する、重要性、将来性、実効性、測定可能性を示す指標となる。そのため、**投資家との対話の際の強力なコミュニケーションツール**になる。
- 更にはインパクト指標は、投資家のみならず多様なステークホルダーに対しても、分かりやすい指標であり、企業の取組みに対して、グローバルなNGO等を含めたステークホルダーとの対話にも活用が期待される。

6. “SDGインパクト”と“インパクト指標”の両輪での取組み



- 「企業・事業体向けSDGインパクト基準」が活用されることで、企業のパーパスや長期目標などに基づくビジネスモデルを、具体的かつ一貫性をもって、投資家をはじめステークホルダーに開示することにつながるのではないかと期待。
- SDGインパクトとインパクト指標の活用にも両輪で取り組むことで、今後、企業と投資家との建設的な対話の促進につながる。